

第 35 回 日本小児外科 QOL 研究会



会 期：2025 年 9 月 27 日（土）

会 場：日本赤十字看護大学

〒 150-0012 東京都渋谷区広尾 4 丁目 1 － 3

TEL 03-3400-1311

事務局：日本赤十字社医療センター小児外科

〒 150-8935 東京都渋谷区広尾 4 丁目 1 － 22

TEL 03-3400-1311

会 長：尾花 和子（日本赤十字社医療センター 小児外科）

第 35 回日本小児外科 QOL 研究会

会長 尾花 和子
(日本赤十字社医療センター小児外科)



謹啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、2025 年 9 月 27 日（土）に、第 35 回日本小児外科 QOL 研究会を日本赤十字看護大学において開催させていただくことになりました。歴史と伝統のある本研究会を日本赤十字社医療センターが担当させていただくのは初めてで、このような機会を与えていただきました幹事・会員の皆様に心より御礼申し上げます。

本研究会においては、特別な主題は設定せずに、小児外科の QOL に関する演題のご提示をお願いいたしましたところ、日常診療、難治性疾患の治療に関する問題から在宅・心理ケアについて、さらには小児外科医の QOL に関する演題まで幅広い視点からの演題をいただきました。当日多くの皆さまと有意義なディスカッションを行い、明日からの診療に役立つ知見を深める一助となることを願っております。

今回、共催セミナーとして、関西医科大学教授の土井 崇先生に胃管先端位置確認システムについてのご講演を、久留米大学小児外科教授の加治 建先生には、短腸症候群に対する GLP-2 アナログ製剤の展望についてお話しいただくことになりました。また、ワンポイント・セミナーとして、本研究会名誉会員の八木 実先生に、自閉症スペクトラムを支える漢方治療としてご講演いただきます。いろいろな切り口から、小児外科の QOL を向上させる取り組みについて有益なお話がうかがえるものと思っております。

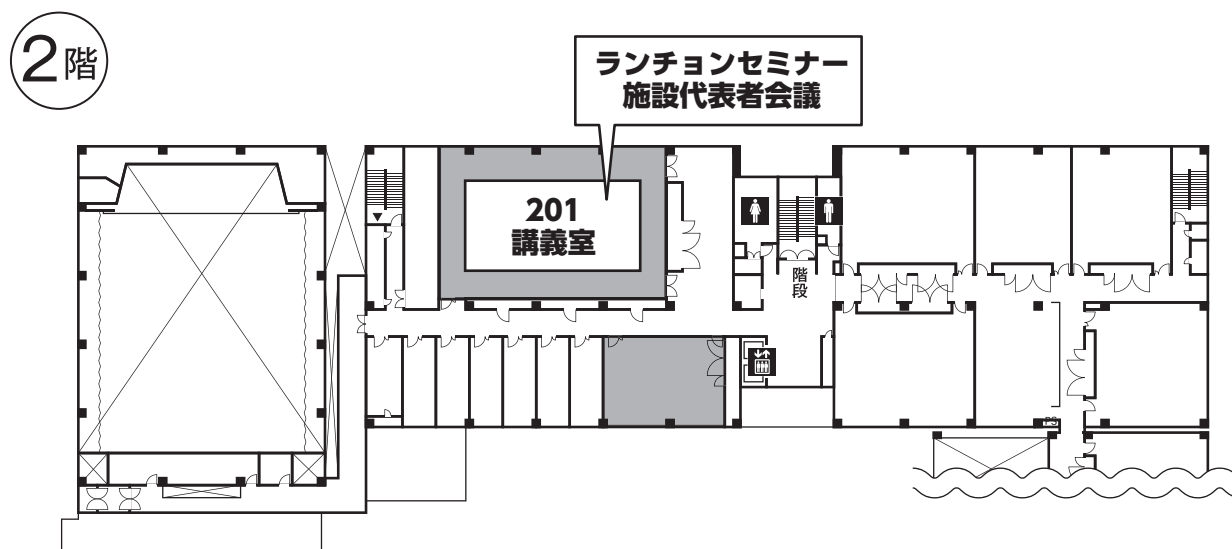
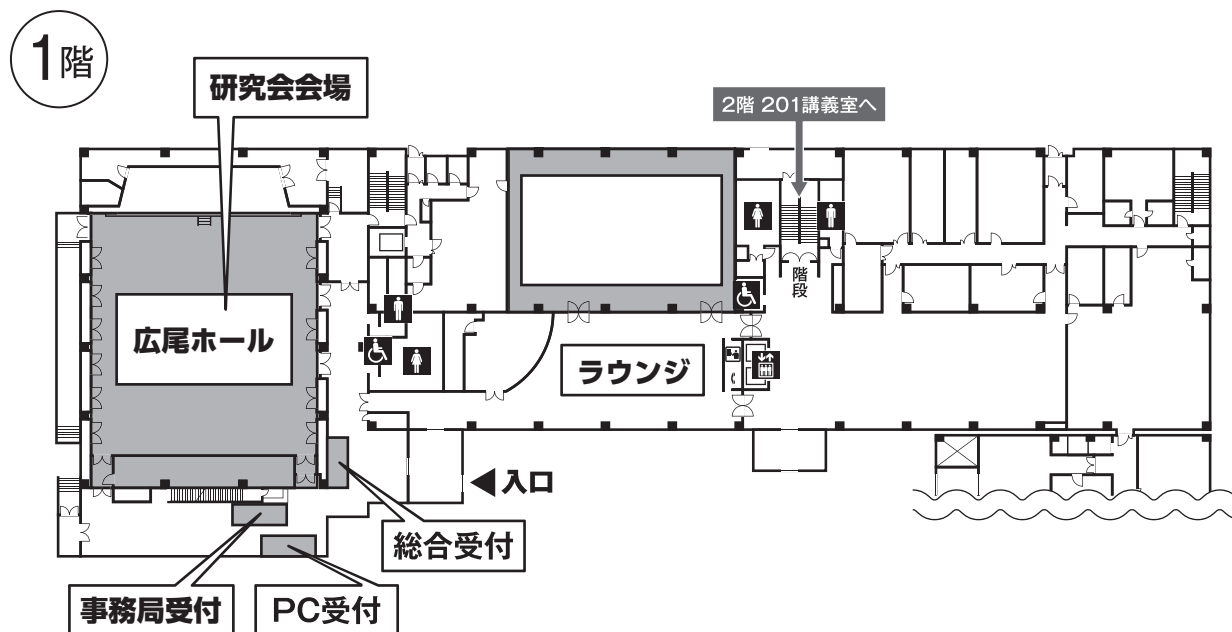
会場の日本赤十字看護大学は、当センターに隣接する渋谷区広尾の高台の一角にあります。お出でになる途中の渋谷や恵比寿の賑わいや、近隣の広尾商店街や有栖川公園などの散策などもお楽しみいただければ幸甚です。

秋の広尾でお目にかかれることをお待ちしております。

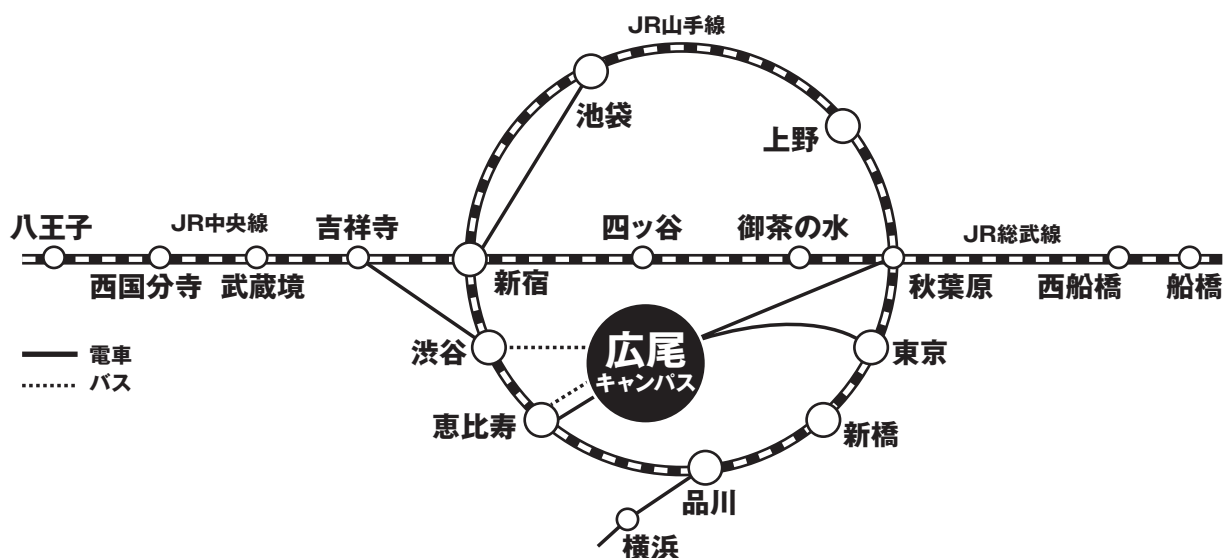
謹白

2025 年 9 月吉日

会場のご案内



交通のご案内



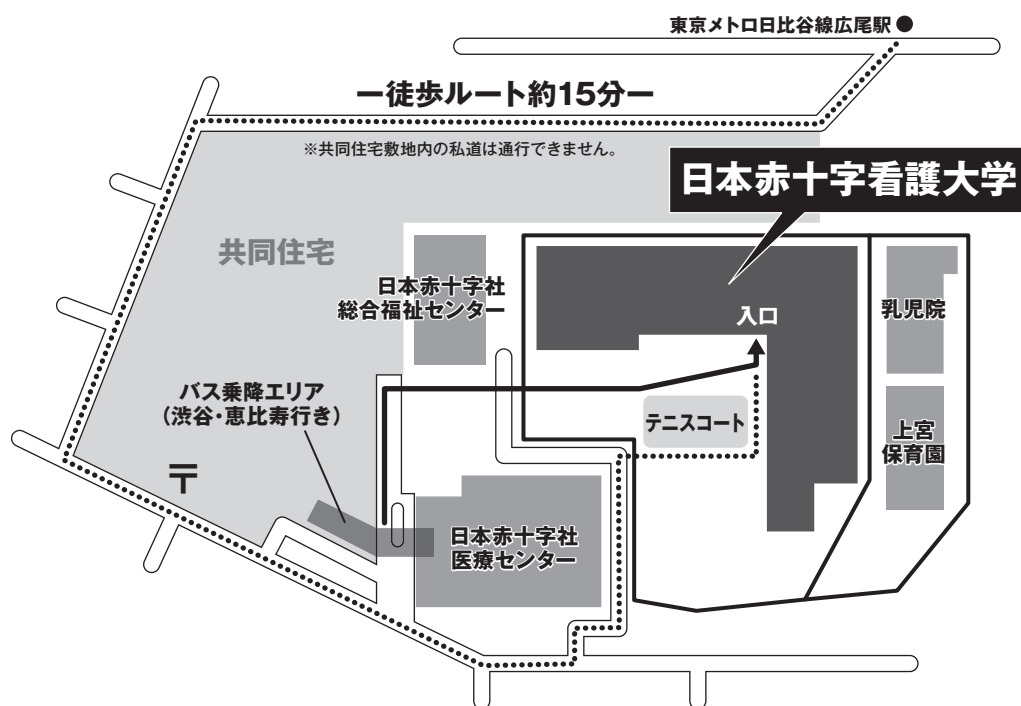
渋谷・恵比寿駅からバスをご利用の場合

- 渋谷駅(JR・東急・京王・東京メトロ)東口から、都営バス「学03」系統
日赤医療センター行 終点下車(約15分)
- 恵比寿駅(JR・東京メトロ)西口から、都営バス「学06」系統
日赤医療センター行 終点下車(約10分)

地下鉄広尾駅(東京メトロ日比谷線)から徒歩で来学の場合

- 広尾駅から下記徒歩ルート(約15分)にてお越しください。
※共同住宅敷地内の私道は通行できません。くれぐれもご注意ください。

キャンパス周辺のご案内



日本赤十字看護大学 広尾ホール

東京都渋谷区広尾4-1-3

参加者の皆様へ

開場、受付開始は 9:00 です。

《参加費》

- ・参加費 5,000 円を当日会場入口の受付にて申し受けます。お支払いは現金のみです。ネームカード（参加証 / 領収書）をお渡ししますので、氏名と所属を記入し会場内で必ずご着用ください。
- ・学生（医学、看護）は無料です。身分証明書や病院での名札をご提示ください。ネームカード（参加証）をお渡ししますので、氏名と所属を記入し会場内で必ずご着用ください。

《演題発表》

1. セッション演題の発表時間は 7 分、討論時間は 3 分です。時間厳守をお願いします。特別企画については別途ご連絡差し上げます。
 2. セッション開始の 30 分前までに PC 受付にてデータの提出をお願いします。発表 10 分前までに会場前方の次演者席で待機してください。
 3. 発表はすべて PC による発表のみです。スライド、ビデオ、DVD の使用はできません。発表のためにお預かりしたデータは研究会終了後に責任を持って消去いたします。
 4. 発表データは USB フラッシュメモリーまたは CD-R でお持ちください。その他のメディアは受付できません。メディアの破損により発表データを取り込めない可能性も考慮して、別の USB フラッシュメモリーなどにバックアップしたデータをご持参ください。
- ・Mac で作成したデータは Windows 用にデータ変換を行い、ご持参ください。
 - ・フォントは Windows 標準フォントをご使用ください。特殊フォントは動作しないことがありますのでご遠慮ください。
 - ・作成した PC とは異なる複数の PC で、正常に起動するかどうか事前にご確認ください。
 - ・発表データは持ち込まれたファイル単体で動くようにしてください。
 - ・動画をご使用の場合は、Windows Media Player の初期状態に含まれるコーデックで再生できる動画ファイルをお持ちください（動画ファイルは WMV 形式を推奨します）。なお、動画については再生に問題を生じる場合がありますので、バックアップにご自身の PC をご用意ください。
 - ・メディアのウィルスチェックは厳重にお願いします。
 - ・発表データのファイル名は「演題番号 氏名」としてください。

《利益相反の申告・開示》

- ・日本小児外科学会の利益相反（COI）に関する指針（2018.8.6）に準じ、当日はすべての筆頭演者の皆様に利益相反状態の有無に関わらず、COI の状況を開示していただきます。

《二次抄録》

- ・「日本小児外科学会雑誌」に演題抄録が掲載されますので、抄録内容に変更がある場合には、修正した二次抄録〔演題名、施設名、氏名（共同演者も含む）、400字以内の本文〕を研究会終了後2週以内に事務局宛に電子メールでご提出ください。
- ・変更がない場合はご提出が不要であり、一次抄録がそのまま掲載されますのでご了承ください。

《座長の先生へ》

- ・会場での座長交代のアナウンスはありません。プログラムに従って、時間厳守でご進行いただきますようお願いいたします。

《食事》

- ・会場内は飲食禁止となっております。飲食は会場を出たところにあるラウンジにてお願いいたします。

《その他》

- ・会場内では携帯電話を必ず「マナーモード」に切り替えてください。
- ・会場内における参加者の呼び出しは行いません。
- ・クロークは設けておりませんのでご了承ください。

施設代表者会議のご案内

日時：2025年9月27日（土）13：00～13：20

会場：日本赤十字看護大学 201 講義室（ランチョンセミナー会場）

第35回日本小児外科 QOL 研究会 プログラム

開催挨拶

9:25～9:30

尾花 和子（日本赤十字社医療センター小児外科）

セッション1 管理・ケア

9:30～10:10

座長 北河 徳彦（神奈川県立小児医療センター外科）

- 1 重症心身障害児者の QOL を左右する気管カニューレ管理
茨城福祉医療センター小児外科 平井 みさ子
- 2 複雑性虫垂炎保存加療における末梢挿入式中心静脈カテーテル（PICC）の有用性
関西医科大学小児外科学講座 佐竹 良亮
- 3 乳歯萌出前の先天性心疾患を持つ乳児に対する口腔ケアの実態
～循環器系ハイケア病棟に勤務する看護師へのアンケート調査から見えてきた現状と課題～
神奈川県立こども医療センター 松野 真佐俊
- 4 薬薬連携により、継続的な介入が可能となった長期中心静脈栄養患者の1例
日本赤十字社医療センター薬剤部 香取 諒太

セッション2 療育・支援

10:10～10:50

座長 藤野 明浩（慶應義塾大学医学部外科学（小児））

- 5 日本最北端の小児外科におけるトランジションの課題と試み
旭川医科大学外科学講座小児外科 宮城 久之
- 6 医療的ケアを必要とする患者・家族への退院支援ツールの作成
久留米大学病院東棟6階病棟 平井 萌
- 7 PICU における患児の心理的支援強化を目指した看護師と保育士の連携
公立大学法人福島県立医科大学附属病院みらい棟 PICU 村松 亜矢子
- 8 ダウン症候群児が心身ともにより豊かな術後生活を送るために ～ミュージック・ケアグループ
“ジュエル・ボックス”の取り組み～
ミュージック・ケア「ジュエル・ボックス」／月山チャイルドクリニック 窪田 昭男

ワンポイント・セミナー

11:00～11:50

- 自閉症スペクトラムを支える漢方治療
- 座長 筑波大学医学医療系小児外科 新開 統子
演者 鶴岡市病院事業管理者 八木 実

ランチョン・セミナー	12:00～12:50	201 講義室
-------------------	--------------------	----------------

小児の医療被ばくを低減する新たな経鼻胃管先端位置確認システム

座長	日本赤十字社医療センター小児外科	尾花 和子
演者	関西医科大学小児外科学講座	土井 崇
共催	(株)大塚製薬工場	

施設代表者会議	13:00～13:20	201 講義室
----------------	--------------------	----------------

特別企画 小児外科医の QOL	13:30～14:00
------------------------	--------------------

座長 田中 秀明（福島県立医科大学小児外科）

- 9 小児外科医の QOL 向上を目指した日本小児外科学会ワーク・ライフ・バランス検討委員会の取り組み

日本小児外科学会ワーク・ライフ・バランス検討委員会／

名古屋大学小児外科 城田 千代栄

- 10 学術集会時の託児所利用に関するアンケート調査

日本小児外科学会 Under45 ワーキンググループ／日本赤十字社医療センター小児外科

高見 尚平

セッション 3 胃瘻・腸瘻	14:00～14:40
----------------------	--------------------

座長 新美 教弘（愛知県医療療育総合センター中央病院小児外科）

- 11 重度の胃瘻脇漏れを発症した 10 例の検討

岡山大学病院小児外科 谷本 光隆

- 12 Ball-valve syndrome による胃破裂とその後のバルーン型胃瘻管理困難に対し、バンパー型胃瘻で管理改善を得た一例

愛知県医療療育総合センター中央病院小児外科 仲野 聡

- 13 難治性の胃瘻漏れに対し内視鏡下で胃粘膜面のアルゴンプラズマ焼灼を行った一例

群馬県立小児医療センター 小嶋 重光

- 14 腸瘻造設を機に QOL が改善した蘇生後脳症の 1 例

東京大学小児外科 福岡 湧介

共催セミナー	14:50～15:40
---------------	--------------------

短腸症候群の QOL 向上をめざして ―GLP-2 研究から見たテデュグルチドの可能性―

座長	日本赤十字社医療センター小児外科	尾花 和子
演者	久留米大学医学部外科学講座 小児外科部門	加治 建
共催	武田薬品工業株式会社	

セッション 4 難治症例

15 : 50 ~ 16 : 30

座長 高安 肇（北里大学医学部一般小児肝胆膵外科）

- 15 反復性胆管炎に対して脳死肝移植を施行し QOL が改善した胆道閉鎖症の 1 例

九州大学大学院医学研究院小児外科学分野 高橋 良彰

- 16 ヒルシュスプルング病術後の遺糞症患者に対して心理療法が著効した一例

聖マリア病院看護部 黒木 沙織

- 17 便秘症例における EMS を用いた排便訓練の効果

順天堂大学医学部附属順天堂医院小児外科・小児泌尿器生殖器外科 濟陽 寛子

- 18 18trisomy を伴った臍帯ヘルニア破裂に対するゴアテックスパッチを用いた腹壁形成に関する工夫

北里大学医学部一般小児肝胆膵外科 小玉 爽太

次期会長挨拶

16 : 35 ~

加治 建（久留米大学医学部外科学講座小児外科部門）

閉会挨拶

16 : 40 ~

尾花 和子（日本赤十字社医療センター小児外科）

演題抄録

茨城福祉医療センター 小児外科
平井 みさ子

重症心身障害児者（重症児者）の気管カニューレ管理は、気管の変形狭窄や拘束性換気障害に直面しつつ、過緊張やけいれんや不随意運動による計画外抜去に向き合わなくてはならない。変形気管に対して十分に細いカニューレを用い、ホルダーを十分に緩める管理が必要なことは様々な機会に報告してきた。当院長期入所の41例に気管壁潰瘍や動脈瘤や不適合カニューレによる不穩は認めない。しかし昨今、アジャストフィット®（AF）を使用する病院が増え、短期間に気管壁に潰瘍を生じ、カニューレの違和感から不穩になったり、体外チューブが長く管理が不安定な症例も診るようになった。AFは術後ICU管理には有用でも、最小サイズが6.0（外径8.7mm）で変形気管には太すぎる、フレキシブルであるために硬いこと、チューブが外に長いことから、長期管理や在宅管理には不向きで様々な危険性を孕む。問題症例を提示しQOLが損なわれない気管カニューレ管理について考察する。

関西医科大学 小児外科学講座
佐竹 良亮、山川 央、青木 望実、田中 里奈、吉本 紗季子、奥坊 斗規子、
中村 弘樹、土井 崇

【結語】複雑性虫垂炎症例に対する PICC 留置は、カテーテル感染なく、穿刺回数を減少させ QOL 向上に寄与すると考えられた。

神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療センター
松野 真佐俊、赤峰 薫、坪井 香

日本赤十字社医療センター 薬剤部¹⁾、NST²⁾、小児外科³⁾、まんまる薬局L S B吉祥寺⁴⁾
香取 諒太¹⁾²⁾、吉見 猛¹⁾²⁾、細谷 治¹⁾、尾花 和子²⁾³⁾、高見 尚平³⁾、
横川 英之³⁾、風間 義弘²⁾、田中 良樹⁴⁾

退院後は、脂肪乳剤を月2回投与するために来院し、入院時には患児の状態を薬剤師も確認した。具体的には短腸症候群に対して開始したテデュグルチドの副作用である排便状況のモニタリングや、低亜鉛血症に対する酢酸亜鉛の補充用量の提案を行うことで、薬学的管理の視点からも介入することができた。今後も患児の中心静脈離脱に向けて継続的な介入を続けていきたい。

5. 日本最北端の小児外科におけるトランジションの課題と試み

旭川医科大学外科学講座小児外科¹⁾、旭川医科大学病院 看護部²⁾
宮城 久之¹⁾、上野 直美²⁾、石井 生¹⁾、東 紗弥¹⁾、目谷 勇貴¹⁾、元木 恵太¹⁾、
久万田 優佳¹⁾、松本 陽¹⁾、萱野 紗希¹⁾

【はじめに】 大学病院の多くが赤字で経営改善を求められる昨今、当施設も例外ではない。

【症例1】30代、女性、胆道閉鎖症術後。結婚され育児希望があるものの時々胆管炎を発症しタイミングについて産科と相談中である。外来フォローアップ中に胆管炎で小児病棟へ入院の機会もあったが、病棟スタッフも患者本人も戸惑った経験もあり、現在は消化器内科と併診の形をとっており、入院の際も成人病棟へ入院している。

【症例2】30代、女性、胆道閉鎖症術後、生体肝移植を経て成人診療科へ通院していたが途中でドロップアウトしてしまい、現在は当科で外来フォローアップ中であるが入院を要する場合に備え、再度、成人診療科への併診を模索している。

【結語】病床数の削減、医療単価が低く、手間がかかり、そして緊急対応も必要な場合もある小児外科医療のトランジションについて、最北端での現在の苦悩と試みについて報告する。

6. 医療的ケアを必要とする患者・家族への退院支援ツールの作成

久留米大学病院東棟6階病棟¹⁾、久留米大学外科学講座小児外科部門²⁾
平井 萌¹⁾、中野 いずみ¹⁾、吉原 輸可理¹⁾、市場 あゆみ¹⁾、岩橋 裕美¹⁾、
川野 佐由里¹⁾、升井 大介²⁾、古賀 義法²⁾、加治 建²⁾

近年、小児医療の進歩に伴い、医療的ケア児は約 2.0 万人と増加している。医療的ケア児と家族が安心して地域で生活する為には、適切な時期に必要な情報の提供や技術の習得ができるよう、医師、看護師だけでなく多職種で連携して支援していく必要がある。しかし、当病棟では職種ごとにそれぞれが独自のツールを使用しており、退院支援の全体の進捗状況の把握と共有が難しい状況であった。そこで今回、話し合いを重ね、関連する職種（医師、看護師、社会福祉士）ごとに役割を明確化した。職種ごとの介入内容と介入時期を図表化し、在宅支援に関わる多職種の介入進捗状況が 1 枚の用紙で見えるように退院支援ツールを作成した。また、そのツールを用いて、看護師経験年数にかかわらず、実際に使用して標準化した退院支援が行われるかどうかを検証した。その結果、ツールの使用が円滑な退院支援に繋がることが示唆された為報告する。

7. PICUにおける患児の心理的支援強化を目指した看護師と保育士の連携
- 保育士とのお話し会の試み -

公立大学法人福島県立医科大学附属病院　みらい棟PICU
村松　亜矢子、佐藤　初美、渡邊　聡美、宮本　祐子

PICU（小児集中治療室）には重症度の高い多様な年齢・発達段階の患児が入室し、多くは医療的管理のため安静度が定められ活動が制限される。一方、活動意欲の高い患児も多く、安静度や発達の欲求との乖離によりストレスや心理的負担が増大することがある。看護師はこうした乖離に悩み、ケアの難しさを感じる場合が多い。

今回、肝肺症候群を合併した肝移植後の幼児期の患児で、活動意欲と安静度の乖離により対応に苦慮する症例を経験した。そこで、術前より患児と関わりのあった病棟保育士と連携し、看護師を対象によりよいメンタルケア・心理サポートの実践に向け「保育士とのお話し会」を開催した。開催後にアンケート調査を実施し、PICUにおける心理サポートや患児との関わり方に対する意識変化を評価した。結果、保育士の視点や考え方を看護ケアに取り入れることが、患児のメンタルケア・心理的支援の質向上に有効であることが示唆されたため報告する。

8. ダウン症候群児が心身ともにより豊かな術後生活を送るために
～ミュージック・ケアグループ「ジュエル・ボックス」の取り組み～

ミュージック・ケア「ジュエル・ボックス」¹⁾、月山チャイルドクリニック²⁾、
和歌山県立医科大学小児科³⁾、日本ミュージック・ケア協会⁴⁾
窪田 昭男¹⁾²⁾、杉本 卓也¹⁾³⁾、浦川 暁美¹⁾⁴⁾

ダウン症候群に伴う精神運動発達遅滞や構音障害などの改善を目的とした音楽療法の報告は散見されるが、ミュージック・ケア（M・C）の取り組みについての報告はほとんどない。筆者らは2016年にM・Cグループ「ジュエル・ボックス」を立ち上げ活動してきた。

方法：M・Cは宮本啓子らが体系化した集団音楽療法である。指導者がその日の参加者に合わせて曲を選び即興でプログラムを組む。参加者は曲に合わせて身体表現や楽器演奏を行う。親子で参加する、指導者と参加者が対等な関係であるなどの特徴がある。

結果：参加者は楽器を使って参加したり、静かに鑑賞したり、休憩したり自由で自然な形で楽しんだ。曲が終わると自然に笑顔になった。次月のセッションを楽しみにするようになった。全ての親は子どもがMCに参加して変わったことに気付いた。

結語：MCはダウン症児の療養法として有用であり、術後の長期的QOLを向上させる可能性が示唆された。

ランチョンセミナー

小児の医療被ばくを低減する新たな経鼻胃管先端位置確認システム

関西医科大学 小児外科学講座

土井 崇 (どい たかし)

本邦における医療被ばく量は世界で最も高い水準にあり、とくに小児は成人よりも放射線の影響を数倍受けやすく、発がんなど成長発育上のリスクが高い。また経鼻胃管挿入留置におけるカテーテル先端位置確認の方法は様々であるが、本邦ではそのほとんどがX線撮影で行われている。

本講演では医療被ばくを低減する新たな経鼻胃管先端位置確認システム「タムガイド[®]」を紹介し、その安全な使用方法と、小児の胃内における適切な位置にカテーテル先端を誘導し確実に留置するための手技工夫を解説する。

略歴：2002 年：順天堂大学卒業。同年：順天堂大学小児外科・小児泌尿生殖器外科入局。
2006 年：順天堂大学小児外科・小児泌尿器外科助手。2007 年：アイルランド国立小児研究所上級研究員。2011 年：順天堂大学小児外科・小児泌尿器外科助教。2012 年：順天堂大学小児外科・小児泌尿器外科准教授。2017 年：関西医科大学外科学講座小児外科診療教授。
2024 年～現在：関西医科大学小児外科学講座主任教授。

共催：株式会社大塚製薬工場



日本小児外科学会ワーク・ライフ・バランス検討委員会の取り組み

名古屋大学大学院小児外科学²⁾東間 未来¹⁾、尾花和子¹⁾

WLB 検討委員会では、医師の働き方改革の本格施行を受け、小児外科医の QOL 向上を目指した活動を継続している。2024 年秋季シンポジウムでは大学病院における管理職と若手医師による徹底討論を実施し、2025 年の学術集会では対象を小児病院・市中病院へ拡大、地域性や病院機能の違いに起因する課題を掘り下げた。登壇施設へのアンケートでは、勤怠管理の工夫、DX 導入状況、タスクシフトの進捗、外科医へのインセンティブ制度など多様な現場の取り組みと課題が報告された。現在は学会員へのアンケート調査を準備中であり、現場の声を可視化し、実態に即した制度提言へ繋げることを目指している。

10. 学術集会時の託児所利用に関するアンケート調査

高見 尚平¹⁾²⁾、尾花 和子²⁾、花木 祥一朗¹⁾³⁾

はじめに

日本小児外科学会総会などでは託児所が用意されているがその利用率は低く活用されていない。日本小児外科学会 Under45 ワーキンググループ (U45WG) 内にて学会託児所に関してアンケートをとったため報告する。

対象と方法

対象：U45WG 構成員 42 名

方法：Google Form による web での回答

結果

26 件の回答を得た。23% の回答者が子供の預け先がないことで学会参加を断念したことがあった。学会の託児所を利用したことがある回答者は 3% であった。自由記載では「申込状況がわかるとよい」、「子供連れで演題を聞いても良い雰囲気が必要」といった意見があった。

考察

アンケート結果からは子育て世代が求めている託児所と学会の託児所とのミスマッチが明らかとなった。託児所の利用率を上げる対策をする・子供の学会参加が不自然でないような環境を熟成していくことで子育て世代の学会参加が促されると思われる。

11. 重度の胃瘻脇漏れを発症した 10 例の検討

岡山大学病院小児外科

谷本 光隆、納所 洋、岡野 寛

胃瘻の脇漏れは患児（者）、家族の QOL を著しく低下させる。当院で胃瘻造設後に重度の脇漏れを生じた 10 例の経過を報告する。

手術時年齢は中央値 3 歳 11 か月、脇漏れは術後 1 か月以内に 4 例、他 6 例は 2, 3, 7, 13, 13, 84 か月で発症、全例腹腔鏡のポート創を用いた胃瘻造設 (Lap 法) であった。7 例で再造設を行い、腹腔鏡 - 消化管内視鏡を用いた穿刺による胃瘻造設 (Lap-PEG 法) の 4 例と開腹による胃瘻造設 (open 法) の 1 例は脇漏れが改善。Lap 法の 2 例は脇漏れが再燃し、1 例は open 法による再々造設により脇漏れは改善。非再造設の 3 例中 1 例は保存的に改善、2 例は重度の脇漏れが持続。

当院では 2021 年より術式を Lap 法から Lap-PEG 法、open 法に変更し脇漏れは 31/58 例から 0/38（うち再手術 6）例に改善した。重度の胃瘻の脇漏れが生じる症例では Lap 法以外で再手術を検討すべきである。



12. Ball-valve syndrome による胃破裂とその後のバルーン型胃瘻管理困難に対し、バンパー型胃瘻で管理改善を得た一例

愛知県医療療育総合センター中央病院 小児外科

仲野 聡、新美 教弘、田中 修一、横田 一樹、大島 一夫

コルネリア・デ・ランゲ症候群の男性。1歳時に嚥下障害に対し Stamm 法で胃瘻造設し、14歳で胃瘻漏れに対し噴門方向に Witzel 法で再造設した。1ヶ月後に胃瘻バルーンの幽門部嵌頓による Ball-valve syndrome で胃破裂を来し緊急手術を施行した。大弯側の破裂を認め縫合閉鎖し、胃瘻は元の部位に再造設した。以後もバルーンの幽門側への引き込みを繰り返し、短いシャフトへの変更やバルーン水減量も効果なく、管理に難渋した。18歳時に胃瘻部精査で上部消化管内視鏡を行い、胃瘻部は幽門から離れていたが、前庭部が狭くバルーンが蠕動で前庭部へ引き込まれる所見を認め、バンパー型胃瘻ボタン（カンガルーボタンTM）へ変更した。以後21歳の現在まで良好に経過している。繰り返すバルーンの引き込みの対処において、シャフト長短縮やバルーン水減量が無効な場合には、バンパー型胃瘻も有効な選択肢となり得ると考えられる。

胃粘膜面のアルゴンプラズマ凝固焼灼を行った一例

小嶋 重光、神田 恒、篠原 正樹、山口 岳史、小西 健一郎、高澤 慎也、西 明

【結語】内視鏡下 APC 焼灼は胃瘻再造設を回避する有効な手段となりうる。今後は症例蓄積による中長期予後の評価、効果を高める手技の工夫、胃壁の薄い児での安全性の検証が求められる。

共催セミナー

短腸症候群の QOL 向上をめざして
—GLP-2 研究から見たテデュグルチドの可能性—

久留米大学医学部 外科学講座 小児外科部門
加治 建 (かじ たつる)

短腸症候群の生命予後は、先人の経験や努力を元にした医療の発展により改善してきた。しかし、水分、栄養素吸収障害、腸管不全関連肝障害（IFALD）、カテーテル関連血流感染症（CRBSI）に加えて、長期的な患児、家族の QOL などの臨床課題が存在している現状がある。GLP-2 アナログ製剤が臨床使用可能となり 3 年以上が経過し、静脈栄養の減量に寄与することが報告されている。しかし、臨床現場での投与開始、終了のタイミング、副反応への対応など個々の症例における判断の難しさなども話に聞くとこである。

今回は、GLP-2 の研究結果を元に、GLP-2 が短腸症候群症例の臨床課題にどのような作用を及ぼすのかを提示する。また、患者・家族の QOL に関する real-world data も紹介し、短腸症候患児の臨床課題及び患児・家族の QOL に及ぼす GLP-2 アナログ製剤の可能性について考えたい。

略歴:1987年:熊本大学医学部卒業。同年:鹿児島大学医学部附属病院 小児外科 研修医。
1989年:静岡県立こども病院外科研修。1990年:鹿児島大学医学部附属病院小児外科医員。
1999年:鹿児島大学医学部小児外科助手。2004年:鹿児島大学大学院医歯学総合研究科健康科学専攻発生発達成育学講座(小児病態制御学分野)講師。2005年:カルガリー大学G Iグループ(Sigalet 教室)留学。2006年:鹿児島大学病院小児診療センター小児外科部門講師。2012年:鹿児島大学学術研究院医歯学域医学系小児外科学分野准教授。2017年:鹿児島大学病院総合臨床研修センター特例教授。2021年:久留米大学医学部外科学講座小児外科部門主任教授。

共催：武田薬品工業株式会社



15. 反復性胆管炎に対して脳死肝移植を施行し QOL が改善した胆道閉鎖症の 1 例

九州大学大学院医学研究院 小児外科学分野

高橋 良彰、松浦 俊治、吉丸 耕一郎、前田 翔平、鳥井々原 幸博、田尻 達郎

【緒言】胆道閉鎖症 (BA) 術後胆管炎の発症頻度は高く、QOL も損なわれる。また、3 カ月以内に 3 回以上胆管炎を反復する症例は肝移植適応となる。今回、反復性胆管炎の症例に脳死肝移植を施行し、QOL の改善が得られたため報告する。

【症例】4歳5カ月男児。BA(Ⅲ-b1-γ)に対して日齢43に葛西手術を施行。経過良好で、術後50日で減黄したが、術後67日に初回の胆管炎を発症した。その後、胆管炎を反復し、計37回入院加療を要した。胆管炎発症時以外の肝機能は正常だが、QOLが著明に低下しており、2歳8カ月時に脳死登録となった。20カ月後に小児ドナーから脳死肝移植術を施行し、経過良好で移植後27日で自宅退院となった。移植後は胆管炎の発症なく、QOLは劇的に改善した。

【結語】胆管炎は重症化すると致命的となり、反復すると肝不全が急激に進行する症例もある。QOL および予後を改善させるための肝移植は有用である。

16. ヒルシュスプルング病術後の遺糞症患者に対して心理療法が著効した一例

聖マリア病院 看護部¹⁾、臨床心理室²⁾、小児外科³⁾

黒木 沙織¹⁾、執行 喜美¹⁾、本山 聡子²⁾、福澤 里香²⁾、吉田 索³⁾、山下 晃平³⁾、
 轟久 士保利³⁾、東館 成希³⁾、浅桐 公男³⁾

7歳女兒、5歳時に直腸重複症を合併するヒルシュスプルング病の診断で腹腔鏡補助下ヒルシュスプルング病根治術と重複腸管切除を行った。術後すぐはオムツ内での自力排便ができていた。術前からの便秘治療による恐怖心から、退院後トイレでの自力排便が我慢してできず、就寝後に便失禁にて排便する状態が持続していた。便秘と便失禁、腸管拡張も持続し、術後8ヶ月より、全身麻酔下の洗腸を適宜行った。浣腸によるトイレ排便指導も患児の拒否強く困難で、トイレ忌避、内服や浣腸に対する家族のアドヒアランス不良もあり心理療法を導入した。心理療法では、遊戯療法と母に対する心理面接を中心に行い、トイレ成功体験のサポートを行った。トイレに座ることから開始し、内服や浣腸の必要性を患児、母とも理解していくことで、徐々にトイレでの排便回数も増え、心理療法開始5ヶ月後には、便失禁なく浣腸なしでトイレでの排泄が可能となった。

17. 便秘症例における EMS を用いた排便訓練の効果

順天堂大学医学部附属順天堂医院 小兒外科・小兒泌尿器生殖器外科
 濟陽 寛子、須田 一人、三宅 優一郎、吉田 志帆、澁谷 聡一、宮野 剛

【背景】

便秘の診療は、薬剤加療のみでは改善せず、時に難渋する。本研究では、家庭用電気刺激機器（Electrical Muscle Stimulation: EMS）を用いて便秘症例の肛門括約筋機能を向上させる排便機能訓練による効果を検証した。

【方法】

当科外来で診療している便秘症例に対し、家庭用 EMS 機器を用いて在宅で 6 か月間の排便機能訓練を行うよう保護者・患児に指導した。排便機能（障害）の変化について排便スコアリングシステム（CSS; 30 点満点）を用い評価した。

【結果】

症例は4例（4～11歳、女児：男児＝1：3）。うち3例は内服薬や坐薬の常用を要していた。4例中2例が6か月間の訓練ののち終了した。4例のうち1例で自排便の頻度と排便までの時間が改善し、1例で便の下着付着の減少を認めた。6か月時のCSSは各々－7点、－3点と改善し、途中で中断した2例でも－2～5点と変化がみられた。

【考察】

小児の手術既往のない難治性便秘において一部の症例でEMSが有用と考えられた。

18. 18 trisomy を伴った臍帯ヘルニア破裂に対する
ゴアテックスパッチを用いた腹壁形成に関する工夫

北里大学医学部 一般小児肝胆脾外科
小玉 爽太、印南 優衣、上松 由昌、渡辺 栄一郎、高安 肇

【背景】18トリソミーの生命予後は一般に不良で、外科的介入については一定の基準がなく、差し控えられることも少なくない。

【症例】臍帯ヘルニアを伴う 18 トリソミーと出生前診断された男児。家族は可能な限りの治療介入を希望した。在胎 35 週 4 日、出生体重 1,215g で帝王切開にて出生。臍帯ヘルニア破裂、心室中隔欠損、動脈管開存を認めた。日齢 9 にサイロ交換と腹腔内評価を施行したが、腸管還納により呼吸循環動態が大きく変動した。循環安定後、日齢 23 に腹壁形成術を実施。両側側腹部に減張切開を置き、正中寄りの皮膚で腹壁に縫着したゴアテックスパッチを覆った。現在、腹壁は完全に皮膚で被覆され、感染兆候なく、状態は安定し、体重は 2kg を超えた。

【考察】本症例では、整容性と感染予防を重視しつつ、腹圧上昇を最小限におさえた腹壁閉鎖を行った。現時点で感染なく母乳栄養が可能で、整容面でも満足が得られており、有効な方法と考えられた。

日本小児外科QOL研究会会則

第1条名称

本会は日本小児外科QOL研究会と称する。

第2条目的・事業

本会は、小児外科領域におけるQOLの向上と研究を目的とし、下記の事業を行う。

1. 学術集会の開催
2. その他本会の目的を達成するために必要な事業

第3条学術集会

学術集会は年1回会長がこれを主催する。演題提出は会員とする。

第4条会員

1. 本会の目的に賛同し、代表幹事に届け出、幹事会で承認され、所定の会費を納入した施設とする。
2. 希望があれば個人会員としての参加も認める。
3. 会員以外の発表者を認める。但し、発表者はその都度個人会員費を支払うものとする。

第5条役員

本会には次の役員をおく。

会長	1名	次期会長	1名	
幹事	若干名	代表幹事	1名	副代表幹事1名
監事	若干名			

第6条会長

会長は幹事会において選出し、施設代表者会議にて承認する。

任期は学術集会の翌日より、次同学術集会の当日までとする。

研究会の記録は日本小児外科学会雑誌に掲載する。

第7条代表幹事・副代表幹事

幹事の推薦により、幹事会で決定する。代表幹事、副代表幹事の任期は2年とし、再任は妨げない。代表幹事に事故があるときは、副代表幹事がこれに代わる。

第8条監事

幹事会での推薦により、施設代表者会議で決定する。任期は2年で、引き続いての再任を認めない。

第9条名誉会員・特別会員

幹事会の推薦により名誉会員・特別会員をおくことが出来る。名誉会員・特別会員は幹事会に出席し、意見を述べることができる。

但し、決議に参加することは出来ない。

第10条 幹事会

1. 幹事会は学術集会の前日、代表幹事が召集し、議長となって開催する。
2. 幹事会の構成は幹事、監事、会長および次期会長をもってする。
3. 幹事会は事業の計画、会長の選任、会計、人事などを決定する。
4. 幹事会の成立は委任状を含めて半数をもってする。
5. 幹事会は出席者の2/3以上をもって議決できる。

第11条 施設代表者会議

施設代表者会議は学術集会の当日、代表幹事が召集し、会長が議長となって、幹事会の決定事項を報告する。

第12条 経費・会計

1. 本会の経費は、会費および寄付金などの収入をもってこれにあてる。
2. 本会の会計年度は4月1日より翌年の3月31日までとする。

第13条 退会・変更

1. 本会の会則の変更は幹事会の承認を得ることを必要とする。
2. 退会を希望するものはその旨を代表幹事に届け出る。

付則 1. 本会の会費は施設会費として年額10,000円とする。

2. 個人会費として年額3,000円とする。
3. 施設会員は1施設・1会員にこだわらない。
4. 研究会に20万円の補助を行う。
5. 事務局を筑後市立病院内に置く。
6. 本会の会則は2005年8月16日から施行する。
7. 本会の会則は2006年11月26日から施行する。
8. 研究会に25万円の補助を行う。
9. 本会の会則は2007年10月6日から施行する。
10. 研究会に30万円の補助を行う。
11. 本会の事務局手当てを5万円とする。
12. 事務局を久留米大学医学部外科学講座小児外科部門内に変更する。
13. 本会の会則は2009年10月4日から施行する。
14. 研究会に35万円の補助を行う。
15. 本会の会則は2011年10月2日から施行する。
16. 研究会に40万円の補助を行う。
17. 本会の会則は2012年10月5日から施行する。
18. 本会の会則は2016年10月14日から施行する。
19. 研究会に45万円の補助を行う。
20. 本会の事務局手当てを7万円とする。
21. 本会の会則は2021年11月5日から施行する。
22. 研究会に50万円の補助を行う。
23. 本会の会則は2023年10月6日から施行する。

- 内規
1. 第7条3年連続欠席の場合には再任しない。
 2. 年会費を3年連続支払わないものは退会とみなす。
 3. 監事は幹事に推薦される。

事務局 久留米大学医学部外科学講座小児外科部門内

〒830-0011

福岡県久留米市旭町6-7

TEL : 0942-31-7631

FAX : 0942-31-7705

Email : kogaj@med.kurume-u.ac.jp

URL : <http://www.med.kurume-u.ac.jp/med/pedisurg/qol/index.html>

代表幹事

高松英夫

Email : k5891315@kadai.jp

副代表幹事

八木実

Email : yagimi@shonai-hos.jp

日本小児外科QOL研究会会員名簿

名誉会員

	施設名	氏名
1		駿河 敬次郎（故人）
2		河野 澄男（故人）
3		溝手 博義

特別会員

	施設名	氏名
1		秋山 洋
2		池田 恵一（故人）
3		石田 清（故人）
4		伊藤 喬廣
5	総泉病院	大沼 直躬
6		葛西 森夫（故人）
7		梶本 照穂
8	せいてつ記念病院	加藤 哲夫
9		木村 茂
10		白木 和夫
11	学校法人福岡学園 理事長	水田 祥代
12		高橋 英世（故人）
13		長寄 彰（故人）
14		長屋 昌宏
15		矢野 博道（故人）
16	介護老人保健施設里仁苑	渡辺 泰宏
17	四国中央病院小児外科	大塩 猛人
18	金沢医科大学小児外科	伊川 廣道
19	向日回生病院 理事長	岩井 直躬
20		嵩原 裕夫
21		角田 晋
22	恵愛病院小児外科専門外来	里見 昭
23	金沢医科大学小児外科	大浜 和憲
24		松井 陽（故人）
25	月山チャイルドケアクリニック 理事兼名誉院長	窪田 昭男
26	武蔵野陽和会病院	蜷澤 融司
27	一宮温泉病院 総合診療・漢方診療科	高野 邦夫
28	地方独立行政法人 埼玉県立病院機構 理事長	岩中 督
29	学校法人神戸学園 理事	中野 美和子
30	医療法人社団 明愛会 小倉南メディカルケア病院 病院長	窪田 正幸
31	学校法人福岡学園 福岡医療短期大学 学長	田口 智章
32		宮本 和俊（故人）
33	医療法人社団浅ノ川 千木病院	河野 美幸

34	西宮渡辺心臓脳・血管センター 漏斗胸治療センター	植村 貞繁
35	東北公済病院 病院長	仁尾 正記
36	聖マリアンナ医科大学 学長	北川 博昭
37	駿甲会 藤枝駅前クリニック 副院長	漆原 直人

役員

幹事

	施設名	氏名
代表幹事	鹿児島大学名誉教授	高松 英夫
副代表幹事	鶴岡市立荘内病院 鶴岡市病院事業管理者	八木 実
1	高知大学医学部附属病院小児外科	大畠 雅之
2	三重県立総合医療センター小児外科	内田 恵一
3	兵庫県立こども病院小児外科	横井 暁子
4	九州大学大学院小児外科	田尻 達郎
5	奈良県総合医療センター小児外科	米倉 竹夫
6	筑波大学医学医療系小児外科	増本 幸二
7	京都府立医科大学小児外科	小野 滋
8	大阪大学大学院医学系研究科外科学講座小児成育外科学	奥山 宏臣
9	国立病院機構 小倉医療センター 小児外科	中村 晶俊
10	鹿児島大学大学院小児外科	家入 里志
11	埼玉県立小児医療センター小児外科	川嶋 寛
12	山形県立中央病院小児外科	伊勢 一哉
13	福島県立医科大学附属病院小児外科	田中 秀明
14	京都第一赤十字病院小児外科	出口 英一
15	徳島大学病院小児外科・小児内視鏡外科	石橋 広樹
16	弘前大学医学部附属病院小児外科	平林 健
17	昭和医科大学医学部外科学講座小児外科学部門	渡井 有
18	愛知県医療療育総合センター中央病院小児外科	新美 教弘
19	名古屋大学医学部小児外科	内田 広夫
20	千葉大学大学院医学研究院小児外科学	菱木 知郎
21	新潟大学大学院小児外科	木下 義晶
22	東北大学小児外科	和田 基
23	静岡県立こども病院小児外科	福本 弘二
24	聖マリアンナ医科大学小児外科	古田 繁行
25	東京大学大学院小児外科	藤代 準
26	日本赤十字社医療センター小児外科	尾花 和子
27	久留米大学医学部小児外科	加治 建
28	聖マリア病院小児外科	浅桐 公男

監事

	施設名	氏名
1	金沢医科大学小児外科	岡島 英明
2	慶應義塾大学医学部小児外科	藤野 明浩

施設会員

No	施設名	氏名
1	北海道大学大学院医学研究院 消化器外科学教室 I	武富 紹信
2	旭川医科大学小児外科	宮城 久之 上野 直美
3	弘前大学医学部附属病院小児外科	平林 健
4	東北大学小児外科	和田 基 青木 亜紀
5	宮城県立こども病院	佐々木 英之 原山 千穂子
6	秋田大学医学部小児外科	水野 大
7	山形県立中央病院小児外科	伊勢 一哉
8	鶴岡市立荘内病院小児外科	大滝 雅博
9	福島県立医科大学附属病院小児外科	田中 秀明
10	茨城福祉医療センター外科・小児外科	平井 みさ子
11	筑波大学医学医療系小児外科	増本 幸二
12	NHO 栃木医療センター小児外科	小林 めぐみ
13	自治医科大学医学部小児外科	照井 慶太
14	獨協医科大学外科学 (上部消化管) 講座	鈴木 完
15	群馬県立小児医療センター外科	西 明
16	自治医大さいたま医療センター小児外科	池田 太郎
17	埼玉県立小児医療センター小児外科	川嶋 寛
18	さいたま市立病院小児外科	大野 通暢
19	医療法人社団誠弘会 池袋病院 小児外科、消化器・一般外科	佐竹 亮介
20	獨協医科大学埼玉医療センター 小児疾患外科治療センター	五十嵐 昭宏
21	埼玉医科大学小児外科	田中 裕次郎
22	千葉大学大学院医学研究院小児外科学	菱木 知郎
23	千葉大学大学院看護学研究院	富岡 晶子
24	東京ベイ・浦安市川医療センター小児外科	小笠原 有紀
25	国際医療福祉大学医学部小児外科学講座	渕本 康史
26	聖路加国際病院小児外科	町頭 成郎 山本 光映
27	昭和医科大学医学部外科学講座小児外科学部門	渡井 有
28	日本赤十字社医療センター小児外科	尾花 和子
29	慶應義塾大学医学部小児外科	藤野 明浩
30	国立成育医療研究センター小児外科	石丸 哲也 奥田 裕美
31	東京大学大学院小児外科	藤代 準
32	順天堂大学医学部小児外科	宮野 剛
33	杏林大学医学部小児外科	浮山 越史
34	神奈川県立こども医療センター外科	北河 徳彦
35	東海大学医学部小児外科	渡辺 稔彦
36	聖マリアンナ医科大学小児外科	古田 繁行
37	横須賀市立総合医療センター小児医療センター小児外科	毛利 健

38	北里大学小児外科	高安 肇
39	山梨県立中央病院小児外科	大矢知 昇
40	山梨大学医学部小児外科	蓮田 憲夫
41	長野県立こども病院外科	高見澤 滋
42	新潟大学大学院小児外科	木下 義晶
43	長岡赤十字病院小児外科	金田 聡
44	金沢大学附属病院小児外科	酒井 清祥
45	金沢医科大学小児外科	岡島 英明
46	静岡県立こども病院小児外科	福本 弘二
47	名古屋大学医学部小児外科	内田 広夫
48	愛知県医療療育総合センター中央病院小児外科	新美 教弘 加藤 千恵
49	あいち小児保健医療総合センター小児外科	小野 靖之
50	三重大学医学部附属病院小児外科	小池 勇樹
51	京都府立医科大学小児外科	小野 滋
52	京都第一赤十字病院小児外科	出口 英一
53	医学研究所北野病院小児外科	佐藤 正人
54	大阪大学大学院医学系研究科 外科学講座小児成育外科学 大阪大学医学部附属病院小児医療センター	馬戸 史子
55	関西医科大学小児外科学講座	土井 崇
56	愛仁会高槻病院小児外科	津川 二郎
57	兵庫県立こども病院小児外科	畠山 理
58	兵庫医科大学小児外科	大植 孝治
59	奈良県総合医療センター小児外科	佐々木 隆士
60	月山チャイルドケアクリニック	月山 啓
61	岡山大学小児外科	谷本 光隆
62	川崎医科大学小児外科 川崎医療福祉大学医療福祉学部保健看護学科	曹 英樹 中新 美保子
63	県立広島病院小児外科	大津 一弘 小原 弘江
64	徳島大学病院小児外科・小児内視鏡外科	石橋 広樹
65	四国こどもとおとなの医療センター小児外科	新居 章
66	高知大学医学部附属病院小児外科	大畠 雅之
67	福岡市立こども病院小児外科	林田 真
68	九州大学大学院小児外科	田尻 達郎
69	飯塚病院小児外科	近藤 琢也
70	久留米大学医学部小児外科	加治 建 川野 佐由里
71	聖マリア病院小児外科	浅桐 公男 執行 喜美
72	長崎大学医学部小児外科	山根 裕介
73	熊本大学大学院生命科学研究部小児外科学・移植外科学講座	日比 泰造
74	鹿児島大学大学院小児外科	家入 里志
75	鹿児島市立病院小児外科	鳥飼 源史

個人会員

	施設名	氏名
1	鹿児島大学名誉教授	高松 英夫
2	鶴岡市立荘内病院 鶴岡市病院事業管理者	八木 実
3	三重県立総合医療センター小児外科	内田 恵一
4	国立病院機構 小倉医療センター 小児外科	中村 晶俊
5	岐阜県総合医療センター小児外科	鴻村 寿
6	石川県立中央病院小児外科	岩出 珠幾
7	独立行政法人広島市立病院機構 広島市立広島市民病院小児外科	今治 玲助
8	茨城県立こども病院	小松 加代子
9	独立行政法人国立病院機構 福山医療センター	塚田 遼
10	岩手医科大学外科学講座	小山 亮太

順不同、敬称略

ご協賛いただいた企業一覧

学術集会をご支援いただきました皆様に
深甚なる謝意を表します。

【共催セミナー】

武田薬品工業株式会社
株式会社大塚製薬工場

【広告】

藤本製薬株式会社
フクダライフテック東京株式会社
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

【その他】

日本赤十字社医療センター
東京大学小児外科
埼玉医科大学小児外科



薬価基準収載

低セレン血症治療剤

アセレント[®]注100μg

ASELEND[®] INJECTION

(亜セレン酸ナトリウム注射液)

劇薬、処方箋医薬品(注意—医師等の処方箋により使用すること)

●効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む注意事項等情報等については、電子添文をご参照ください。



藤本製薬グループ

〔製造販売元(文献請求先及びお問い合わせ先)〕

藤本製薬株式会社

〒580-8503 大阪府松原市西大塚1丁目3番40号

TEL: 0120-225-591 FAX: 0120-116-026

URL: <http://www.fujimoto-pharm.co.jp/>

®登録商標



酸素濃縮装置

クリーンサノ FH-1010

医療機器認証番号:3Q2AFBZX00065000

販売名:クリーンサノ FH-1010

管理医療機器 特定保守管理医療機器



酸素濃縮装置

クリーンサノ FH-310S

医療機器認証番号:3Q1ADBZX00059000

販売名:クリーンサノ FH-310S

管理医療機器 特定保守管理医療機器



**呼吸同調式
レギュレータセット**

OxyCube オキシキューブ

医療機器認証番号:228AFBZX00010000

販売名:OxyCube オキシキューブ

管理医療機器

フクダライフテックの 酸素濃縮器と人工呼吸器ラインナップ



汎用人工呼吸器

クリーンエア ASTRAL[®]

医療機器承認番号:22600BZ100018000

販売名:クリーンエア ASTRAL

高度管理医療機器 特定保守管理医療機器



汎用人工呼吸器

クリーンエア prismaVENT

医療機器承認番号:23000BZX00340000

販売名:クリーンエア prismaVENT

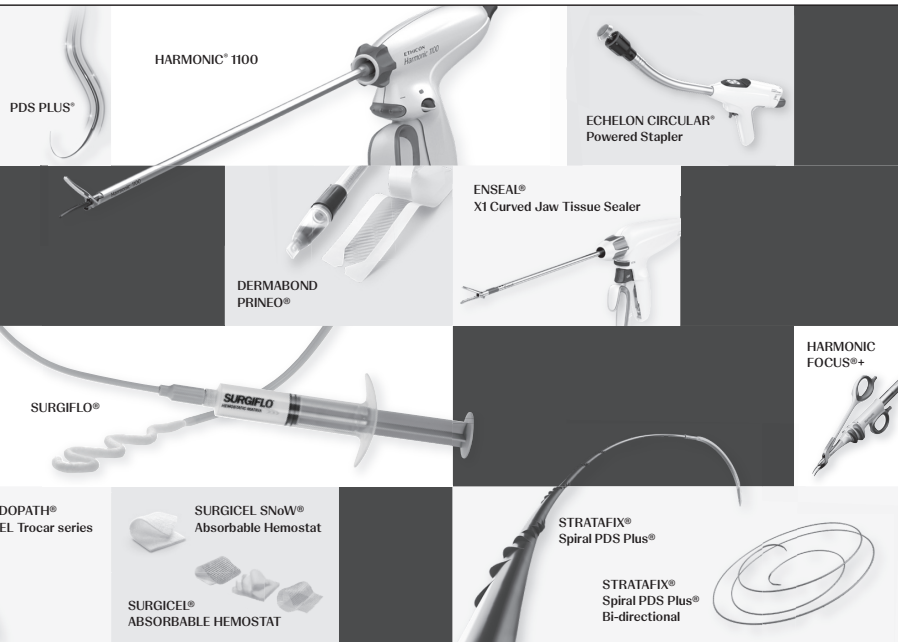
高度管理医療機器 特定保守管理医療機器

製造販売業者:株式会社フクダ産業

フクダライフテック東京株式会社

〒112-0002 東京都文京区小石川4-14-24 TEL.(03)3830-0626(代)

Johnson & Johnson MedTech



製造販売元：ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 メディカルカンパニー 〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-5-2 TEL.0120-160-834

販売名：エンドバス スティプラー Powered ECHELON FLEX 3000	認証番号：304AA8ZX00060000	販売名：STRATAFIX Spiral PDS プラス	承認番号：229008ZX00123000
販売名：GSTカートリッジ	承認番号：227008ZX00155000	販売名：STRATAFIX Spiral PDS プラス Bidirectional	承認番号：304008ZX00016000
販売名：エシェロン サーキュラー パワードスティプラー	承認番号：301008ZX00156000	販売名：PDS プラス	承認番号：223008ZX00333000
販売名：エンドバス トロカーステム	認証番号：219008ZX00882000	販売名：ダーマボンド プリネオ	届出番号：1381X00204ME0010
販売名：ハーモニック 1100 シアーズ	承認番号：303008ZX00138000	販売名：サージフロ	承認番号：231008ZX00112000
販売名：エンシールX1 ティッシュシーラー	承認番号：302008ZX00391000	販売名：サージセル・パウダー・アブソーバブル・ヘモスタット	承認番号：302008ZX00082000
販売名：ハーモニック FOCUS プラス	承認番号：227008ZX00411000	販売名：サージセル スノー・アブソーバブル・ヘモスタット	承認番号：303008ZX00042000
		販売名：サージセル・アブソーバブル・ヘモスタットMD	医療機器承認番号：304008ZX00112000

JP_ETH_STAP_357792
©J&J 2022

